

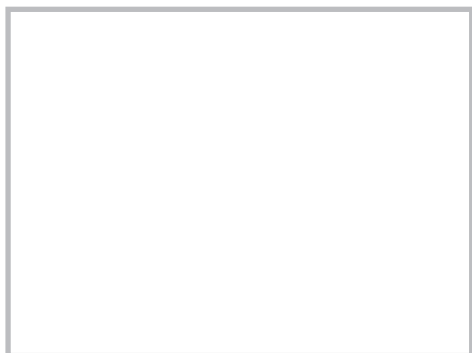


図 19.22 匙状爪 (spoon nail)



図 19.23 先天性爪甲肥厚症 (pachyonychia congenita)
母親 (上) と子 (下) に生じた爪甲変形。

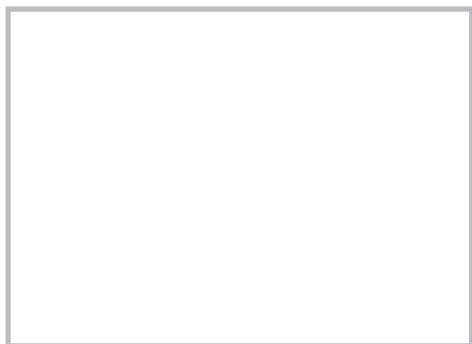


図 19.24 爪甲横溝 (transversal groove)
月 1 回の化学療法により、横溝 (ボー線) が多発している。

4. 爪甲脱落症 onychomadesis, nail shedding

爪甲剥離症とは逆に、爪根部から末梢側へ爪の剥離が進み、ついには脱落する。特発性のものもあるが、外傷や爪囲炎、乾癬、扁平苔癬、梅毒、紅皮症などで生じることもある。爪甲横溝が著しくなった場合でも生じる。

5. 爪甲肥厚症 (厚硬爪甲) pachyonychia

爪甲自体が厚くなるか、あるいは爪甲下の過角化で肥厚した状態である。爪甲の伸びが妨げられて分厚くなる。先天性のものはケラチン 6A, 6B, 16, 17 の遺伝子の変異が原因である〔先天性爪甲肥厚症 (pachyonychia congenita), 図 19.23〕。分厚く彎曲した状態を爪甲鉤彎症 (onychogryphosis) といい、高齢者の母趾に好発する。

6. 爪甲縦溝 longitudinal groove

爪甲を縦に走る線条である。老人性変化の一つとしてみられることが多い。進行すると爪甲縦裂症 (onychorrhexis) という爪甲が縦に割れやすい状態となる。外傷、湿疹、強皮症、貧血などでみられる。

7. 爪甲横溝 transversal groove

横に溝が走った状態をさし、爪母に何らかの障害が生じて、爪甲の成長が一時的に抑制された結果である。溝の幅は障害の期間を、溝の深さは障害の強さを意味する。外傷など局所的原因では侵される爪に限られるが、内因性で生じたものではすべての爪に生じる〔ボー線 (Beau's lines), 図 19.24〕。発熱性疾患、感染症、糖尿病、薬剤、出産、亜鉛欠乏症などが原因となる。

8. 点状陥凹 nail pitting

爪甲に針でつついたような点状の凹窩が多発する。乾癬や円形脱毛症 (図 19.25) でみられるほか、健常人にも生じることがある。

9. 爪甲層状分裂症 onychoschizia

爪の先端が細かく鱗状に層状分離をきたして、割れやすくなっている状態である。爪甲の水分低下によるとされ、冬季に好

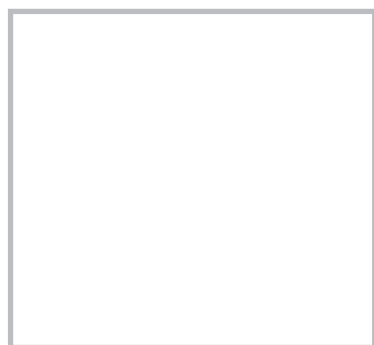
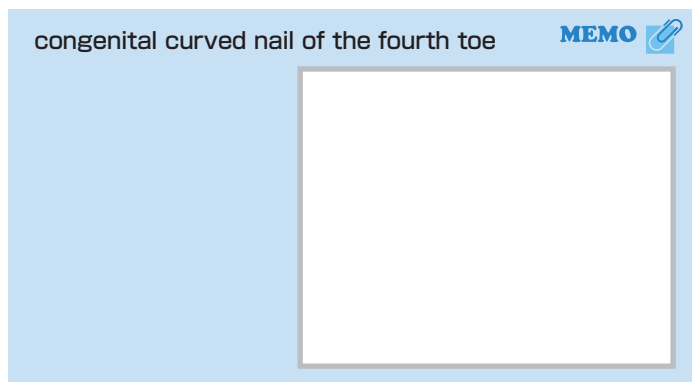


図 19.25 点状陷凹 (nail pitting)
円形脱毛症の例.

発する。マニキュアによることが最も多いが、SLE などの全身性疾患によっても生じうる。

10. 陥入爪 かんにゅうそう ingrown nail

爪の側縁が側爪郭に食い込み、このために側爪郭が腫脹発赤して肉芽腫様に盛り上がり、圧痛を伴う（図 19.26）。程度が強いと爪囲炎など二次感染をきたし、反応性の肉芽形成を伴う。靴による圧迫や深爪が原因となり、第 1 趾に好発する。爪が異常に内側に彎曲する状態を巻き爪（pincer nail）といい、陥入爪をきたしやすい。白癬菌による爪の変形に続発する場合は原疾患の治療を行う。治療は外力を避け、清潔を保つのが第一であるが、難治性のものに対してはワイヤー法などの爪矯正術や外科手術が必要となる（図 19.26d）。

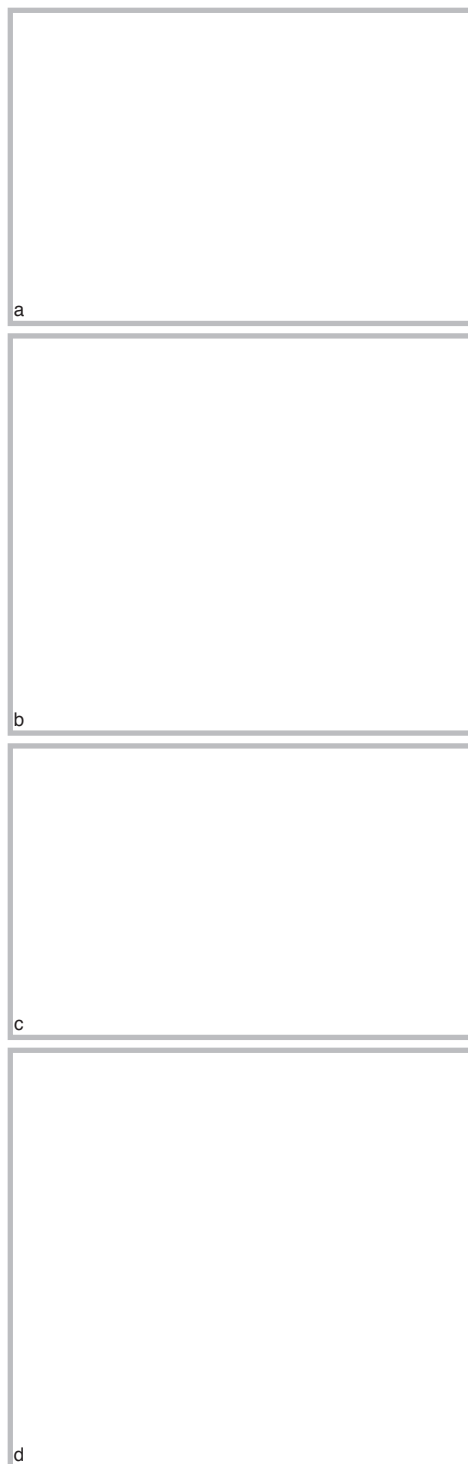


図 19.26 陥入爪 (ingrown nail)
a: 第 1 足趾爪、内側が側爪郭に食い込み疼痛を伴う。
b, c: 反応性の肉芽形成。d: 治療として爪母を含めた部分抜爪術。